

令和7年度 かごしま林業大学校 シラバス（授業計画）

研修コード	A1～3
項 目	総合
背景と目的	就業相談会への参加等を通じて、就業に向けた情報収集及び就業活動を行う。
科 目 内 容	開講式，就業ガイダンスへの参加，閉講式

科 目	講 義 内 容	時間数		
		座 学	実 習	計
開講式・オリエンテーション	・開講式 ・オリエンテーション	6.0	0.0	6.0
就業ガイダンス	・就業相談会への参加等	12.0	0.0	12.0
閉講式・オリエンテーション	・修了証書の交付	3.0	0.0	3.0
計		21.0	0.0	21.0

到達目標	希望する就業先となり得る林業事業体等への情報収集・就業活動に取り組む。
評価方法と基準	評価方法と評価基準のとおり

研修コード	B1～12
項 目	林業基礎
背景と目的	林業の担い手として必要な森林・林業に関する基礎知識を習得する。
科 目 内 容	本県の森林・林業の現状と課題，林業現場における森林施業箇所の視察，森林の多面的機能・保安林等制度・森林計画制度等・森林経営管理制度等についての基礎知識，樹木の見分け方と用途，森林施業図等を活用したトレッキング，手工具の取扱及びメンテナンス，森林環境教育の体験活動，森林吸収源対策の概要，民有林と国有林の連携による森林づくりの取組

科 目	講 義 内 容	時間数		
		座 学	実 習	計
鹿児島県の森林・林業	・森林法等関連施策及び本県の森林・林業の現状と課題 ・本県森林・林業の課題に対する取組（内地・離島・奄美別）	3.0	0.0	3.0
森林・林業現場の視察	・林業現場における森林施業全般	0.0	6.0	6.0
森林の多面的機能と森林施業	・多面的機能の役割と私たちの生活との関わり ・多面的機能を発揮させる森林施業	1.5	0.0	1.5
保安林, 林地開発許可制度	・保安林制度と林地開発許可制度の概要 ・保安林の種類，役割，必要な手続き	1.5	0.0	1.5
森林計画制度	・地域森林計画，市町村森林整備計画の概要 ・森林経営計画及び伐採届出制度の概要と必要な手続き	3.0	0.0	3.0
森林経営管理制度, 森林環境譲与税	・森林経営管理制度及び森林環境譲与税の概要	3.0	0.0	3.0
樹木学	・樹木を枝葉や樹皮等から見分ける知識 ・樹木毎の用途	3.0	3.0	6.0
森林トレッキング	・森林施業図を活用したトレッキング ・山の歩き方と体力強化	0.0	6.0	6.0
手工具の取扱及びメンテナンス	・使用する鋸，鉋，鎌等の構造等の理解 ・メンテナンスに必要な知識，技術 ・安全な使い方の実習	1.5	4.5	6.0

科 目	講 義 内 容	時間数		
		座 学	実 習	計
森林環境教育	・感性を育む自然体験活動 ・自然の中でのコミュニケーションと仲間づくり	3.0	9.0	12.0
森林吸収源対策	・森林吸収源対策（私たちにできること）の概要 ・カーボンオフセット，吸収量等認定の取組	3.0	0.0	3.0
民有林と国有林の連携	・民国連携による森林づくりの取組 ・民国連携した森林づくりの現地研修	1.5	1.5	3.0
計		24.0	30.0	54.0

到達目標	森林・林業の現状と課題，森林の多面的機能，森林・林業に関する各種制度など，森林・林業に必要な基礎知識を理解する。
評価方法と基準	評価方法と評価基準のとおり

研修コード	C1～8
項 目	森林経営
背景と目的	森林経営に必要な持続的な森林づくりの基本的考え方，森林経営計画の作成方法，提案型集約化施業の進め方，森林整備に係る補助制度などの基礎知識を習得する。
科 目 内 容	森林管理に必要な持続的な森林づくりの基本的の考え方，森林経営計画の作成手法等，提案型集約化施業の進め方とコスト分析等，森林整備に係る補助制度，森林認証制度・環境保全に配慮した森林経営についての基礎知識

科 目	講 義 内 容	時間数		
		座 学	実 習	計
森林管理	・ 現況森林の調査・把握手法 ・ 持続的な森林づくりの基本的な考え方（生産目標と目標林型） ・ 間伐作業の種類と目的，密度管理（混み合い度の指標）	6.0	0.0	6.0
森林経営計画	・ 森林簿，森林計画図等の見方，林地台帳の活用 ・ 森林経営計画の作成演習	3.0	0.0	3.0
施業プラン （経営基礎）	・ 事業地設計 ・ 事業体運営の基礎知識	24.0	0.0	24.0
施業プラン （施業提案）	・ 提案型集約化施業の進め方 ・ 森林施業提案書の作成 ・ 上記提案書についての情報共有（意見交換）	9.0	9.0	18.0
施業プラン （コスト分析）	・ 施業提案と結果のコスト分析 ・ コスト分析についての情報共有（意見交換） ・ 補助金申請の演習と留意事項	9.0	15.0	24.0
森林整備に係る補助制度	・ 森林整備に関する補助金制度と補助金申請演習	6.0	0.0	6.0
森林認証制度	・ 森林認証制度について ・ 森林認証制度の現状と課題，県内の取得状況 ・ 高隈演習林における森林認証取得の取組	6.0	3.0	9.0
環境保全に配慮した森林経営	・ 屋久島の林業の歴史と世界自然遺産登録後の環境保全に配慮した森林経営 ・ 現在の屋久島の林業・木材産業の現地学習	0.0	18.0	18.0
計		63.0	45.0	108.0

到達目標	森林管理の基礎，森林経営計画の作成，提案型集約化施業の進め方，森林整備の補助制度，森林認証制度や環境保全に配慮した森林づくりなどの基礎知識を理解する。
評価方法と基準	評価方法と評価基準のとおり

研修コード	D1～5
項 目	森林調査
背景と目的	森林調査に必要な立木調査・周囲測量の基礎知識と技術を習得する。また、GNSS・GIS、ドローン等のICT機器を活用した最先端技術の基礎知識を習得する。
科 目 内 容	立木調査，周囲測量，GNSS・GISや3Dレーザースキャナ，ドローンによる森林調査手法

科 目	講 義 内 容	時間数		
		座 学	実 習	計
立木調査	・ 輪尺，測竿等による測樹（胸高直径，樹高） ・ 測樹結果に基づく材積計算	3.0	3.0	6.0
周囲測量	・ コンパス，デジタルコンパスによる周囲測量 ・ 測量結果に基づく面積算出（図面作成）	3.0	6.0	9.0
森林調査 (GNSS・GIS)	・ GNSS，GISの基礎及びGISを活用した施業地の管理 ・ QGISの活用事例	6.0	6.0	12.0
森林調査 (3Dレーザースキャナ)	・ 3Dレーザースキャナによる森林情報の取得実習 ・ 3Dデータ化や森林資源情報の解析 ・ 現地計測との比較	6.0	6.0	12.0
森林調査(ドローン)	・ ドローン撮影の操作実習 ・ ドローン撮影による画像の3Dデータ化 ・ ドローン撮影オルソ画像による測量	6.0	6.0	12.0
計		24.0	27.0	51.0

到達目標	森林調査で必要となる立木調査・周囲測量の技術を習得する。 また，ICT技術を活用した森林調査方法の基礎知識を理解する。
評価方法と基準	評価方法と評価基準のとおり

研修コード	E1～4
項 目	安全衛生
背景と目的	作業を安全に行うための基礎知識と現場での安全対策などを習得する。
科 目 内 容	林業労働災害の現状と課題，VR体験，労働災害発生時の対応，リスクアセスメントや危険予知活動の基礎知識，交通安全講習

科 目	講 義 内 容	時間数		
		座 学	実 習	計
林業労働安全衛生基礎	・ 林業労働災害の現状と課題 ・ 労働安全衛生法等と安全作業の基礎知識 ・ V Rシミュレーターによる林業労働災害の疑似体験	3.0	6.0	9.0
林業労働安全対策	・ 労働災害発生時の対応 ・ アレルゲン検査（蜂アレルギー対策）	3.0	3.0	6.0
リスクアセスメント	・ リスクアセスメントの基礎知識 ・ 危険予知活動（K Y 活動）の基礎知識	6.0	0.0	6.0
交通安全講習	・ 交通安全の現状と法令遵守の意義	3.0	0.0	3.0
計		15.0	9.0	24.0

到達目標	林業労働災害の現状，安全作業やリスクアセスメントなど，林業労働安全の重要性に関する基礎知識を理解する。
評価方法と基準	評価方法と評価基準のとおり

研修コード	F1～6
項 目	造林・育林
背景と目的	森林づくりに必要な造林及び保育作業の基礎知識とその作業技術を習得する。
科 目 内 容	造林・育林の基礎知識，苗木の生産方法と実習，地拵え・植栽の実習，下刈り・除伐の実習と基本的な刈払機操作，早生樹造林の取組，一貫作業システムの基礎知識と実践

科 目	講 義 内 容	時間数		
		座 学	実 習	計
造林・育林基礎	・造林作業（地拵え，植栽）及び育林作業（下刈，除伐等）に関する基礎知識	6.0	0.0	6.0
苗木生産実習	・苗木の生産方法 ・苗木生産の実習	3.0	15.0	18.0
地拵え・植栽実習	・地拵え，植栽の実習 ・現場状況に応じた安全かつ確実な施業技術の習得	0.0	30.0	30.0
下刈り・除伐実習	・下刈り，除伐の実習 ・現場状況に応じた安全かつ確実な施業技術の習得 ・刈払機のメンテナンス（構造，清掃，目立て，部品交換等）	0.0	60.0	60.0
早生樹造林	・早生樹造林の取組 ・早生樹植栽地における現地実習	0.0	6.0	6.0
一貫作業システム	・一貫作業システムの基礎知識とコンテナ苗の植栽実習 ・伐採時に使用した機械を地拵えや苗木運搬に利用する一貫作業システムの実践 ・ドローンによる苗木運搬	3.0	9.0	12.0
計		12.0	120.0	132.0

到達目標	造林及び育林作業や苗木生産の基礎知識を理解するとともに，その作業や刈払機のメンテナンスに係る技術を習得する。また，低コスト化に向けた一貫作業システムを実践し技術を習得する。
評価方法と基準	評価方法と評価基準のとおり

研修コード	G1～15
項 目	素材生産
背景と目的	スギ等の人工林における間伐等の素材生産や広葉樹伐採の基礎知識とその作業を高性能林業機械等を活用して安全に行う技術を習得する。
科 目 内 容	素材生産の基礎知識，チェーンソーによる安全な伐木造材技術とメンテナンス，伐木造材の実習，木材検収システムによる材積算出実習，ロープワーク実習，ワイヤースプライス実習，林内作業車の運転操作技術，高性能林業機械の安全な操作技術とメンテナンス，広葉樹の安全な伐採・造材技術，広葉樹の薪生産・架線集材・人家裏等の特殊な立木の伐採についての基礎知識，CRL認証の現状と取組，風倒木竹等の安全処理実習，九州伐木チャンピオンシップの視察

科 目	講 義 内 容	時間数		
		座 学	実 習	計
素材生産基礎	・ 林業機械，路網及び作業システム ・ 原木流通	6.0	0.0	6.0
伐木造材実習	・ 伐木造材の実習 ・ 現場状況に応じた安全かつ確実な施業技術の習得 ・ チェーンソーのメンテナンス（構造，清掃，目立て，部品交換等）	18.0	207.0	225.0
除間伐・間伐実習	・ 間伐作業の種類と目的，密度管理（混み合い度の指標） ・ 選木方法，安全な伐倒とかかり木等処理の進め方の実習	3.0	12.0	15.0
木材検収システム実習	・ 木材検収システムによる材積算出実習	0.0	3.0	3.0
ロープワーク実習	・ 三つ編みロープの基本，用途別の各種結び方 ・ 結び方実習	3.0	3.0	6.0
ワイヤースプライス実習	・ ワイヤーロープの概要，かご差しの手順 ・ アイスプライス，ショートプライスの実習	3.0	3.0	6.0
林内作業車運転技術	・ 林内作業車の性能及び安全基準 ・ 林内作業車の運転操作実習	0.0	12.0	12.0
高性能林業機械操作技術	・ ハーベスタシミュレーターによる操作演習 ・ 高性能林業機械の安全な操作技術及びメンテナンス ・ 高性能林業機械の組合せによる安全かつ効率的な作業システム	6.0	60.0	66.0

科 目	講 義 内 容	時間数		
		座 学	実 習	計
広葉樹の伐採・造材技術	・ 広葉樹の安全な伐採・造材技術	3.0	9.0	12.0
薪生産技術	・ 薪の需給状況 ・ 軽節工場向け薪の品質・規格 ・ 薪の生産実習	3.0	6.0	9.0
架線集材実習	・ 架線集材の基礎知識 ・ 架線集材の現地実習	3.0	3.0	6.0
特殊伐採実習	・ 特殊伐採の事例紹介 ・ 安全な伐採，樹上作業方法の現地実習	3.0	3.0	6.0
素材生産事業体によるCRL認証制度の取組	・ 責任ある素材生産事業体認証制度（C R L 認証制度）の概要と取組状況 ・ C R L 認証に係る現地調査	3.0	6.0	9.0
風倒木竹等の安全処理実習	・ 風倒木竹等処理の事例紹介 ・ 風倒木竹等の安全な伐採方法の実習	3.0	9.0	12.0
九州伐木チャンピオンシップ	・ 九州伐木チャンピオンシップへの参加 ・ 他県の林業大学校研修生との交流	0.0	12.0	12.0
計		57.0	348.0	405.0

到達目標	素材生産を安全かつ効率的に行うための作業システムやチェーンソー及び高性能林業機械のメンテナンスなどの基礎知識を理解するとともに，現場条件に応じた安全かつ確実な施業技術を習得する。また，広葉樹伐採，架線集材，風倒木竹等の安全処理などの基礎知識を理解する。
評価方法と基準	評価方法と評価基準のとおり

研修コード	H1～3
項 目	路網
背景と目的	森林施業と木材生産の効率化に向けた路網整備の基礎知識や森林作業道の作設に必要な基礎知識と技術を習得する。
科 目 内 容	路網整備の基礎知識，路網設計支援ソフトを活用した路線の計画，森林作業道の作設実習

科 目	講 義 内 容	時間数		
		座 学	実 習	計
路網整備基礎	・路網（林道，林業専用道，森林作業道）の目的，規格等 ・森林作業道の計画及び測量実習	6.0	12.0	18.0
路線計画（路網設計支援ソフト）	・路網設計支援ソフトを活用した路線の計画	3.0	0.0	3.0
森林作業道作設	・森林作業道の作設実習	6.0	18.0	24.0
計		15.0	30.0	45.0

到達目標	路網整備の基礎知識，路線の計画を理解するとともに，森林作業道を作設できる技術を習得する。
評価方法と基準	評価方法と評価基準のとおり

研修コード	11～5
項 目	木材利用
背景と目的	木材の特性や需要動向及び木育の基礎知識を習得する。また,木材加工施設や木造施設等の研修を通じて丸太から製材品・商品までの過程に関する知識を習得する。
科 目 内 容	木材の特性と用途・木材の流通・加工・販売についての基礎知識, 木育の取組と方法, 木材加工施設・木造施設等における現地研修

科 目	講 義 内 容	時間数		
		座 学	実 習	計
木材利用の基礎	・木材の特性（収縮, 含水率, 強度）と用途 ・CLT等のエンジニアリングウッド	1.5	0.0	1.5
木材の加工・流通・販売	・木材の需要動向や住宅着工戸数, 木材価格の動向 ・九州における木材流通の現状	1.5	0.0	1.5
木育	・木育の概念, 木育に必要な基礎知識	3.0	0.0	3.0
木材加工施設現地研修	・用材, CLT, 集成材等に関する製材・加工施設, 木質バイオマス発電施設の現地研修（九州内）	0.0	12.0	12.0
木造建築物現地研修	・木造施設の現地研修（九州内）	0.0	6.0	6.0
計		6.0	18.0	24.0

到達目標	木材の特性や加工・流通・販売の基礎, 木育の取組, 製材品としての木材利用を理解する。
評価方法と基準	評価方法と評価基準のとおり

研修コード	J1～5
項 目	特用林産
背景と目的	本県で主に生産されている特用林産物の生産に必要な基礎知識や技術を習得する。
科 目 内 容	しいたけ栽培の基礎と原木伐採等実習，枝物栽培の基礎と定植等実習，たけのこ栽培の基礎と掘り取り等実習，竹材の利活用の取組等，木炭生産の基礎と実習

科 目	講 義 内 容	時間数		
		座 学	実 習	計
しいたけ生産 実習	・しいたけ栽培の基礎（ほだ木づくり，管理），病虫害と防除 ・原木の伐採，枝払い，玉切り及び植菌，伏せ込み実習	6.0	12.0	18.0
枝物生産実 習	・シキミ，サカキ，ヒサカキ栽培の基礎（苗木の作り方，管理， 病虫害と薬剤） ・さし木による苗木づくり，くくり作業，定植実習	6.0	12.0	18.0
たけのこ生産 実習	・モウソウチクの生理・生態，早掘りたけのこの生産技術（親竹 管理，施肥等） ・掘り取り実習	6.0	12.0	18.0
竹材の利活 用実習	・竹材利用の現状（製紙用竹チップ，竹炭，竹サイレージ等） ・伐竹実習，工場視察	3.0	9.0	12.0
木炭生産実 習	・木炭生産の現状，木炭生産の基礎（生産方法，道具，木酢液 等） ・生産現場視察（原木割，立込み，炭だし等）	2.0	4.0	6.0
計		23.0	49.0	72.0

到達目標	しいたけ，枝物，たけのこ，木炭の生産に必要な基礎知識を理解するとともに，その技術を習得する。また，竹材の利活用に向けた基礎知識を理解する。
評価方法と基準	評価方法と評価基準のとおり

研修コード	K1～3
項 目	森林保護
背景と目的	森林の健全な成長を阻害する森林病虫害や獣害の基礎知識を習得する。
科 目 内 容	森林病虫害の基礎知識，獣害防止ネット設置実習，松くい虫被害の防除方法の基礎知識及び伐倒駆除実習

科 目	講 義 内 容	時間数		
		座 学	実 習	計
森林保護の基礎	・ 森林被害の状況と対策 ・ 森林病虫害のメカニズムと被害対策，獣害対策	3.0	0.0	3.0
防獣ネット設置実習	・ シカ被害の実態と防除対策 ・ 獣害防止ネットの設置	3.0	6.0	9.0
松くい虫被害木整理実習	・ 松くい虫被害のメカニズム，防除方法について ・ 松くい虫被害木の調査，伐倒，薬剤処理の実習	3.0	12.0	15.0
計		9.0	18.0	27.0

到達目標	森林病虫害獣害に必要な基礎知識を理解するとともに，獣害防止ネットの設置や松くい虫被害の防除方法の技術を習得する。
評価方法と基準	評価方法と評価基準のとおり

研修コード	L1～5
項 目	一般教養
背景と目的	社会人として必要なマナーの基礎知識を習得するとともに、職場や地域社会での人間関係構築に必要なコミュニケーション能力やプレゼン能力を習得する。
科 目 内 容	コミュニケーション能力向上研修，マナー講座，リーダーシップ研修，オープンキャンパスやボランティア活動への参加

科 目	講 義 内 容	時間数		
		座 学	実 習	計
コミュニケーション能力向上研修	・グループワーク等によるコミュニケーション等の能力開発	6.0	0.0	6.0
マナー講座	・社会人として必要なマナー，話し方・伝え方の基本	3.0	0.0	3.0
リーダーシップ研修	・地域リーダーに学ぶ森林づくりの取組状況	3.0	0.0	3.0
オープンキャンパス	・オープンキャンパスへの参加による接客，接遇，プレゼン能力の向上	0.0	6.0	6.0
ボランティア活動	・ボランティア活動への参加	0.0	12.0	12.0
計		12.0	18.0	30.0

到達目標	コミュニケーション能力を向上させるとともに，マナーの基本を習得する。また，将来のリーダーとしての視野を広げる。
評価方法と基準	評価方法と評価基準のとおり

研修コード	M1～13
項 目	資格取得
背景と目的	林業に就業する上で必要な資格を取得する。
科 目 内 容	刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育，荷役運搬機械等によるはい作業従事者に対する安全衛生教育，伐木等の業務に係る特別教育，伐木等機械の運転の業務に係る特別教育，走行集材機械の運転の業務に係る特別教育，簡易架線集材装置等の運転の業務に係る特別教育，機械集材装置の運転の業務に係る特別教育，小型移動式クレーン運転技能講習，玉掛け技能講習，車両系建設機械運転技能講習，不整地運搬車技能講習，上級救命講習，狩猟免許講習・試験

科 目	講 義 内 容	時間数		
		座 学	実 習	計
刈払機取扱 作業安全 衛生教育	・ 刈払機を使用する作業，点検・整備に関する知識 ・ 振動障害及びその予防に関する知識 ・ 刈払機の作業	5.0	1.0	6.0
はい作業従 事者安全衛 生教育	・ 荷役運搬機械等によるはい作業の方法等に関する知識 ・ 災害事例	5.0	0.0	5.0
チェーンソー作 業従事者特 別教育	・ 伐木等作業，チェーンソーに関する知識 ・ 振動障害及びその予防に関する知識 ・ チェンソーの点検及び整備，操作 ・ 伐木等の方法	9.0	9.0	18.0
伐木等機械 運転特別教 育	・ 伐木機械及び作業に関する知識 ・ 伐木機械の走行及び作業に関する装置の構造・取扱いに関する知識 ・ 伐木機械の走行の操作 ・ 伐木機械の作業のための装置の操作	6.0	6.0	12.0
走行集材機 械運転特別 教育	・ 走行集材機械及び作業に関する知識 ・ 走行集材機械の走行及び作業に関する装置の構造・取扱いに関する知識 ・ 走行集材機械の走行の操作 ・ 走行集材機械の作業のための装置の操作	6.0	6.0	12.0
簡易架線集 材装置運転 特別教育	・ 簡易架線集材装置の集材機械及び架線集材機械に関する知識 ・ 装置の構造・運転に必要な知識 ・ 架線集材機械の走行の操作 ・ 簡易架線集材装置の集材機の運転及び架線集材機械作業装置の操作	6.0	8.0	14.0

科 目	講 義 内 容	時間数		
		座 学	実 習	計
機械集材装置運転特別教育	・ 機械集材装置の知識 ・ ワイヤロープの知識 ・ 機械集材装置の運転 ・ ワイヤロープの取扱い	6.0	8.0	14.0
小型移動式クレーン運転技能講習	・ 小型移動式クレーン及び原動機・電気に関する知識 ・ 小型移動式クレーンの運転のために必要な力学に関する知識 ・ 小型移動式クレーンの運転のための合図 ・ 小型移動式クレーンの運転	13.0	7.0	20.0
玉掛け技能講習	・ クレーン等に関する知識，玉掛けの方法 ・ クレーン等の玉掛けに必要な力学に関する知識 ・ クレーン等の運転のための合図 ・ クレーン等の玉掛け	9.0	7.0	16.0
車両系建設機械運転技能講習	・ 運転に必要な一般事項に関する知識 ・ 作業に関する装置の構造，取扱い及び作業方法に関する知識 ・ 車両系建設機械の走行操作 ・ 作業のための装置の操作	13.0	25.0	38.0
不整地運搬車技能講習	・ 運転に必要な力学に関する知識 ・ 荷の運搬に関する知識 ・ 荷の運搬	7.0	4.0	11.0
上級救命講習	・ 救命措置に関する講習及び実習	4.0	4.0	8.0
狩猟免許(わな猟)	・ 狩猟免許講習，試験	12.0	0.0	12.0
計		101.0	85.0	186.0

到達目標	各種資格等を取得する。
評価方法と基準	評価方法と評価基準のとおり

研修コード	N1
項 目	就業体験
背景と目的	林業事業体においてインターンシップを行い，林業の現場で働く実践力を高める。
科 目 内 容	林業事業体における職場体験

科 目	講 義 内 容	時間数		
		座 学	実 習	計
インターンシ ップ	・ 林業事業体における職場体験	18.0	72.0	90.0
計		18.0	72.0	90.0

到 達 目 標	林業で働くイメージを構築し，自身の希望する就業先の選定に活かす。
評価方法と基準	評価方法と評価基準のとおり

評価方法と評価基準

1 評価方法

研修内容の理解度、技術の習熟度等の評価については、シラバスの項目ごとに次の事項により行う。

なお、病気や災害等のやむを得ない事情により欠席するときは、補講を受けることができる。

(1) 出席時間数

シラバスの各項目ごとに定める全時間数に対する出席時間数の割合により評価する。

(2) 取組姿勢

振り返りシートの記載や、担当職員の受講状況確認により評価する。

(3) 理解度テスト

研修内容の理解度を確認するための「理解度テスト」又はレポートにより評価する。

(4) 習熟度判定

技術の習熟度を確認するための「習熟度判定」により評価する。

(5) 資格取得

資格の取得状況により評価する。

項 目	評価事項					備 考
	出 席 時間数	取 組 姿 勢	理解度 テスト	習熟度 判 定	資 格 取 得	
総 合	○	○				
林 業 基 礎	○	○	○			
森 林 経 営	○	○	○			
森 林 調 査	○	○	○	○		
安 全 衛 生	○	○	○			
造林・育林	○	○	○	○		
素 材 生 産	○	○	○	○		
路 網	○	○	○			
木 材 利 用	○	○	○			
特 用 林 産	○	○	○			
森 林 保 護	○	○	○			
一 般 教 養	○	○				
資 格 取 得	○	○			○	
就 業 体 験	○	○				受入事業体の評価

2 評価基準

評価事項	評価基準
出席時間数	項目ごとに定める全時間数の8割以上の出席を確認し評価
取組姿勢	適切に受講していないと判断される場合、当該科目については欠席扱いとする
理解度テスト	項目毎に6割以上の成績を確認し評価
習熟度判定	習熟度判定の修了をもって評価
資格取得	資格の取得をもって評価